

シリーズ 中学校武道

授業の充実に向けて ②

相撲授業の実践報告と必修化の課題



山梨県忍野村立忍野中学校教諭
堀内 弥

中学2年生から相撲を始め、高校・大学・教員と、20年間、競技スポーツとしての相撲に携わってきた。現在は、国語科の教員として勤めるが、相撲部を指導し、また、体育の授業で相撲が行われる際に体育科教員への支援を行っている。この二つの立場から見えてくる、中学生の相撲への関わりについて、私なりの見解を述べさせていだきたいと思う。

平成24年度から中学校体育の授業で、武道が必修として学習されることになった。このことは、武道を体験せずに成長する子どもたちが多く、日本古来の礼法や、他を尊重する精神も養える

良い機会になると考える。また、日本全体の武道人口の減少を食い止める一助になると感じる。特に相撲に関して言えば、多くの武道の中でも、競技自体がシンプルなため、競技する側も受け入れやすく、指導する側も比較的容易にでき、専門的な知識がなくても工夫して実施できる運動種目である。そして、高価な道具も必要とせず、活動のための場所もグラウンドや体育館で行えるといった利点がある。以上のことから、今回の武道必修化において、相撲が多くの学校現場で取り入れられることを願っている。

2010. 8 月刊「武道」

はじめに

(1) 本校の概要

本校は富士山の麓、標高950メートルに位置する。夏でも気温が30度以上になることは少なく、爽やかな高原地帯にある。富士山の東側の宝永山と西側の小御岳を肩に、積雪の部分を閑取の肌、木々の緑の部分を化粧まわしに見立て、地元ではその姿を横綱富士と呼ぶ人もいる。この富士山を信仰する神社仏閣も多く、数十年前までは奉納相撲が盛んに行われたため、相撲が身近に感じられる地域であった。

昭和61年(1986)には、「かいじ国体」の相撲競技が開催され、その数年前からは、全校相撲大会・相撲カルタ・相撲体操などが授業に取り入れられた。残念ながら多くの活動が行われなくなってきたが、全校相撲大会は現在でも年に一度開かれている。

(2) 指導目標と指導者のポジション

本校では、校内相撲大会を全校で行っている。男女ともに団体戦か個人戦のいずれかに参加している。この大会は、発展的な授業として捉えられ、生徒は大会までに、体育の授業で相撲の基礎・基本を学んでいる。体育の授業では、「安全に」「楽しさや興味を持つて」ということが前提にある。一方、部活動では当然のごとく、「勝敗」にもこだわ



り、指導を行っている。ここにおいて、指導者はその指導目標をかんがみ、自分がどのポジション(目的を考えた立場)にいるのかを強く認識する必要がある。なぜなら、競技スポーツとして実践してきた指導者は、勝敗にこだわり、勝つためのテクニックを教授するなど、競技スポーツとしての常識の中で指導する傾向が強いからである。立ちあいで頭から当たったり、押っつけたりする

ことは、当たり前に行えることではないのである。そこで指導目標にあわせ、競技スポーツの感覚を頭から取り去ることができれば、新たな練習法や、誰もが楽しめる相撲のあり方が意外と簡単に見えてくる。また、相撲を専門としてい

ない指導者は、可能性を伸ばすことができる良いチャンスと捉えていただきたい。相撲は他の武道と比べても、とてもシンプルな種目である。指導の目的と方法によっては専門性をあまり必要としないことを意識してほしい。

91

月刊「武道」 2010. 8

90

2 体育における相撲の授業

(1) 武道必修化完全実施に向けての条件整備について

①施設対応（グラウンドで十分）
本校では、6月7月に3クラス合同（生徒約100名、教師3、4名）で相撲の授業を行う。その際、20面の土俵を作っている。グラウンドの状態が良くないと



土俵作りの様子

きには、靴を履いて行ったり、体育館を使う。

土俵は、各クラスから選出された相撲実行委員が作り、休み時間に管理を行っている。俵のない皿土俵であるが、十分に活動できる。土俵際で足が俵にかかる分、無理な技に行くこともなく、導入段階ではむしろ安全である。

②用具対応（相撲パンツ・柔道の帯）

本校の授業では相撲パンツを使用している。また、導入段階や礼法、受け身の指導はジャージのみで行っている。まわしは、投げ技の練習に適しているが、生徒は反射的にそれをつかんで



授業では相撲パンツを使用している

しまうため、押しの基本や相手への力入れ具合、バランスを意識することに集中できなくなってしまうことがある。

経験を積むと、投げ技を行うようになるが、相撲パンツでも技の指導は十分にできる。また、授業ではまわしのかわりに柔道の帯も使用している。つったり、寄ったりすることは難しいが、幅が狭い分、手の中に帯が収まり、しっかりと握れるため、出し投げや、前禰を取って攻撃することの指導に向いている。

③指導者対応（専門的な知識がなくとも指導は可能）

本校では26年間、相撲の授業と全校相撲大会を行っているが、その間、相撲を専門とした教員は5年前に赴任した私を含め、2名である。しかも、体育科教員は、26年前にこの活動を始めた時の1名だけで、その教員も3、4年で異動してしまったようである。つまり、相撲を専門としていない体育科教員が中心となって、この活動を支えてき

たのである。

相撲はシンプルな運動種目である。単純にいえば、いかに相手のバランスを崩すかに勝敗が左右される。ここにおいて、生徒は自分自身が安定した体勢を保ち、いかに相手のバランスを崩すかということを考える必要がある。

本校では、バランスの良い体勢のことを、「強い姿勢」と呼び、どのようにすれば「強い姿勢」になることができるのか、グループで話し合い、その結果をもとに、練習や試合を行っている。これは相撲を専門としない先生方が考えた指導法で、とてもわかりやすく、現在でも授業で使っている。専門的な知識がなくても指導者の自由な発想があれば、よりよい授業が展開でき、生徒も自主的に考えて臨むことができる。

(2) 授業の展開

①相撲授業の目標

本校では、相撲授業の目標を

「態度」「学び方」「技能」に分け、指導を行っている。

▽「態度」の内容

- ・グループ学習を意欲的に行う
- ・授業の規律を守り、伝統的な礼儀やルールを身につける

▽「学び方」の内容

- ・実技書などの資料の活用により要点を把握する
- ・課題別での技術向上練習に取り組む
- ・要点の理解をもとにグループでの練習や試合・行司を行う

▽「技能」の内容



基本動作「すり足」

- ・基本的動作（蹲踞、塵浄水、四股、腰割り、すり足・運び足、受け身）を知る
- ・基本技能（おっつけ、押し、寄り）を身につける
- ・対人的技能（前さばき、腕の返しかた、まわしの切りかた）を身につける

②授業の意図

昔は仲間で土俵をつくり（円を描き）、遊びの中で相撲が親しまれていたが、最近は遊び方も変化し、体を動かして遊ぶことが少なく、あまり行われなくな



基本技能「押し」。男子（写真上）は脇の下、女子（写真下）は腰骨に手をあてる



近現代柔道

特別定価 840円(税込)

8月号

Judo

全国の柔道ファン必見の本格派専門誌!

【2010年高校総体プレビュー】
**男女団体・個人戦組み合わせ&展望
全出場校名鑑／都道府県予選記録**

【グラندスラム・モスクワ2010】
東京世界選手権へ最後の戦い

【解体新書】
杉本美香 (コマツ)

【技術特集】Vol.2
「崩し」を極める!

【入門! 一流の技術】
渡辺涼子5段の「大外刈り」
動画配信中!

【全日本学生優勝大会】
**女子は山梨学院大が王座奪還
東海大、歴史に刻んだ3連覇!**

（資料１）単元の指導計画

時間	主な活動内容	具体的な学習内容	観点別評価
1	オリエンテーション 礼儀作法	相撲の歴史 競技の特性と約束	(1)－① (4)－③
2	基本的動作 基本技能を身につける 押し相撲	蹲踞、塵浄水、四股、すり足・運び足 押し相撲で試合	(3)－① (4)－①
3	基本的動作 基本技能を身につける 投げなし相撲	蹲踞、塵浄水、四股、押し すり足・運び足、受け身・おっつけ 投げなし相撲で試合	(2)－③ (4)－①
4	基本技能と対人的技能を利用した実践 攻め方の研究、団体戦①	グループごとの団体戦対戦と課題発見・解決 グループごとの練習計画	(2)－① (2)－②
5	攻め方を考えるグループ学習 試合と行司の仕方、対人的技能	グループごとに、ある形からの攻め方を学習 押し方などの発見学習	(2)－① (2)－②
6	課題発見と実践 試合と行司の仕方、団体戦②	グループ前時で考えたことを発表 みんなで考えて体捌きを習得	(1)－③ (2)－②
7	課題別グループ練習 得意技の習得と個人戦	個人の得意技を習得するための課題別のグループ活動	(4)－① (1)－③
8	基本技能と対人的技能 試合と行司の仕方、団体戦③	グループごとの団体戦と課題発見・解決 グループの作戦の立て方	(1)－② (3)－②
9	課題別グループ練習 得意技の習得と団体戦④	得意技の習得 グループの作戦の立て方	(2)－① (3)－②
10	基本的動作・基本技能 対人的技能のまとめ	グループごとの団体戦と課題発見・解決、 振り返り	(2)－③ (4)－③

（資料２）単元の評価基準と評価方法

(1) 運動への 関心・意欲・態度	(2) 運動についての 思考・判断	(3) 運動の技能	(4) 運動についての 知識・理解
①マナーや約束を守り、相撲に進んで取り組もうとしている。 ②グループで励まし合い楽しく練習や試合をしようとしている。 ③自己の役割を意識し、安全に留意しながら練習や試合をしようとする。	①課題を発見しようとグループで協力している。 ②課題に対して効果的な取り組みを考え計画的な学習ができる。 ③前時の記録を参考に自分の課題発見や仲間へのアドバイスができる。	①基本的動作を習得し、試合を行うことができる。 ②基本的動作から基本技能・対人的技能に発展させ、学習内で自分の役割を果たすことができる。	①相撲の技術を高めるための練習方法を知っている。 ②相撲のルールや審判方法を知っている。 ③相撲の歴史や競技の特性理解している。
観察 自己評価	学習カード 観察	学習カード 観察	学習カード ペーパーテスト

③単元の指導計画及び評価基準
（資料１、２）
１年生から３年生まで基本的には変わらない内容で学習を進めている。まず、１時間目のオリエンテーションでは、相撲の歴史と、礼儀作法の学習を行う。次に相撲の特性として、以下の６点を理解させる。①裸体で行われる対人競技である。②円形の狭く限られた場で競技が行われる。③瞬時に全力を尽くして勝負を決する競技である。④互いにバランスを崩しあいながら、技の攻防をする技術が必要とされる。⑤相手を尊重し、互いに礼儀を重んじる態度が必要である。⑥勝負の判断がつきやすく、誰でも審判（行司）ができる。
２時間目からは、相撲の基本動作を行う（資料３）。特にこの時間を大切に指導している。なぜなら、まず、相撲に興味を持たせると共に、「強い姿勢」（腰を落とし、お腹の中心に力を入れ、バランスを取る姿勢）を意識させることが、相撲の単元を

通じて、最も基本となるからである。受け身も、はじめから回転型の受け身を練習するのではなく、仰向けになり、足と頭をお腹の中心に引きつけ、ゆりかごのような状態から始める。この時も、お腹の中心に力が入るように指導する。また、低い体勢から「手押し相撲」（お互いに手のひらをぶつけ、移動せずにその場で倒し合う相撲）や「びよんびよん相撲」（両足ではねながら行う押し相撲）で競い、横や後ろに転ぶときも、「ゆりかごの受け身」を取らせる。さらに、前後の動きやバランスを意

識させるために、「引き合い相撲」（片腕の手首をお互いにつかみ、引き合う。このとき前後の攻防を体験させる）も行う。
３時間目以降は、グループ学習を行う。グループ内で教え合うことによって、さらに興味関心が増し、個人種目であっても、集団の意識や自分の責任を感じていくことを目的とする。
評価は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」「知識・理解」に分けて行う。また、学習カードなどの補助教材を使用し、「知識・理解」については、ペーパーテストを導入している。

（１）導入時の注意点
相撲の特質やシンプルな競技性を考え、いざ相撲の授業を行おうとしたとき、指導者と生徒の間でイメージの違いがあることを意識しておかなければならない。まず、授業を進める上で障害になるのが生徒の相撲に対するイメージである。大相撲を観戦しても、体が大きく、体重が重い方が有利であることは誰もが知るところである。また、まわしだけしか身につけていないことで、生徒は相撲が特別な運動種目であると思ってしまう。
生徒の中には、「裸・裸足になることが嫌だ」「まわしのイメージが悪い」「組み合うのが恥ずかしい」「男子の競技であるというイメージが強い」「女子は勝っても恥ずかしい」といった思いがある。部活動として相撲を指導



びよんびよん相撲



引き合い相撲

3

「相撲」授業の導入にあたって

武道・武術の秘伝に迫る!

月刊秘伝

定価990円(税込) 7月14日発売!!

最後に勝てる理由は、“自然性”!?

武術で格闘技を勝つ!

■ビクトル古賀×島津兼治 with 平直行 萩原幸之助
■吉鷹弘 ■日野晃

8月号

好評発売中!

特集

目次

8月号

好評発売中!

特別企画

●呉氏開門八極拳・長春八極拳の歴史的邂逅
呉連枝老師来日セミナー'10
&10周年記念表演会

●秘伝初登場 モニ・アイザック創始 超護身術
コマンドー・クラヴ・マガ
ファーストステップ

●無住心会 近藤孝洋 新連載開始!
武術の信じられないような深いトコ、お話しします!
武術極意の深あ〜い話

●合気会
第48回全日本合気道演武大会

●ロシアン武術システムセミナーレポート
ヴラディミア・ザイコフスキー
システムが養う武術の深み
“マーシャルアーツタッチ”

●ロルフアー 藤本靖
『身体 ホームポジション』 発刊企画
目と皮膚感覚で身体が変わる
“内部感覚活性化”

●周玉❧老師の五行通背拳・気功講習会
全身で打ち出す電光のごとき閃撃

連載

流水拳四代目 高橋輝之“うねり”が創る“身根力”「流水メソッド入門」/DSで解く!「高岡英夫の“人類遺産”」/極真空手 清武会 西田幸夫「空手に整える武術の英知」/奥山龍峰「八光流柔術“心的作用”の謎に迫る」/山口香「現代柔道へ“活”」/身体の深奥に迫る“戦士の気づき”「武術とフェルデンクライス・セミナー」/武術秘伝書夢世界/保江邦夫「物理学から見た崩しと合気」/長沼敬憲「腸能力を磨け」/その他、豪華連載!

(株) BAB ジャパン出版局

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚1-30-11 中村ビル
TEL03-3469-0135 FAX03-3469-0162
総編ホームページ http://www.bab.co.jp/hiden/

しまうことに関しては、グループで練習したり、団体戦の一員とすることにより、自分の頑張りが、チームのためになるということを全面に押し出して行くよう指導を心がけている。

(2) 自ら考える力を養う

先にも述べたが、相撲は押すことを中心とした、とてもシンプルな運動種目である。そのため、基本の姿勢をきちんと理解すれば、その後、生徒自身はどうすれば勝てるか、比較的簡単に考えられる。「人を地面と平行に押すよりも、上に持ち上げる

がら押す方が良い」「手は、相手の脇の下におく」「押すときは、相手に寄りかかるのではなく、お腹の中心に力を入れて押す。そうすることにより、相手が逃げてみすぐに追うことができる」「足は揃えないで、どちらか一方の足を出しておく」。これらは、すべて子どもたちが考えたことである。

(3) 発展的に継続することを目指す

本格的ではないにしても、子どもの頃には誰もが相撲の、もしくは相撲に似た取り組みをし

たことがあるのではないだろうか。授業で行うということに縛られ、どうしても参考となるものに頼ってしまう。このことに關しては悪いことではないが、相撲の導入にあたっては、指導者自身が自らの経験をもとに、生徒と工夫しながら授業を組み立てることができる良い機会として捉えたい。その方が教育的価値が高いと考える。

相撲は、他の武道種目に比べ、受け身や、技に関して理解しやすく、生徒は習得しやすい。そのことにより、単元の中で、競技にかけられる時間が多くとれ

る。生徒たちも受け身の練習や型の練習ばかりでは、おもしろさを見出せないだろう。導入時の苦労はあるが、いったん相撲の授業を行えば、教師、生徒がともにその良さを知り、発展的に継続できると考える。本校で、専門家がいないに等しい状況だったにもかかわらず、26年の長きにわたり授業が行われてきたことが、その証明になると思われる。また、前述したが本校では、発展的な授業として一学期末に男女全員で参加する、全校相撲大会を行っている。以下に取り組みの内容を紹介する。

するときも、まわしを初めて着ける生徒は、それに対して少なからず抵抗感をもっている。多くの指導者が、まず、まわしを着けさせることに頭を悩ませているのが事実ではなからうか。かく言う私もその一人である。しかし、さまざまな思いに対して、それらを乗り越える過程に、精神的に生徒一人ひとりが成長するためのきっかけがある。指導者は、生徒をその気にさせ、生徒が持つ相撲の負のメージを払拭することに力を注がねばならない。

そのためには、相撲の歴史や、武具を使わず正々堂々と言うこと、体の大きさに関係なく行えることなどを伝えるガイダンスが重要になる。仮に教師が相撲を専門としていなかったとしても、それはむしろ、初めて行う生徒の気持ちに寄り添って、相撲の歴史や特性を伝えられるのではないかと考える。また、女子に見られる、「勝っても恥ずかしい」といった気持ちを持つて

(資料3) 2時間目の展開例

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
はじめ 10分	◇ウォーミングアップ(押し相撲など) ◇準備体操 ◇集合・整列・号令 ◇健康・忘れ物確認 ◇本時の流れの説明 ◇基本動作	・ウォーミングアップを終え整列する ・自分の健康状態を確認し、仲間の健康状態を知る ・本時の学習内容を確認する ・見本を見て、ポイントを確認する ・蹲踞、礼、塵浄水、四股を全体で確認する	・時間への意識を促す ・生徒の健康状態を把握する ・前時までの習得状況を確認する
なか 30分	◇強い姿勢の習得 ◇強い姿勢からすり足 ＜ポイント＞ ・足の出し方・手の位置・上半身のブレ ・姿勢(上半身)・脇の状態(締める) ◇強い姿勢からの押し ＜ポイント＞ ・おでこ(頭の位置)・前屈みにならない ・手の置く位置 (男子＝脇の下、女子＝腰骨) ◇足相撲 ＜ポイント＞ ・重心(力を入れる場所)・バランス ・受け身の取り方(背中を丸くする) ◇強い姿勢から引き合い相撲 ＜ポイント＞ ・受け身 (背中を丸くする・顎を引く) ・腕の状態 ◇びよんびよん相撲 ＜ポイント＞ ・跳ねながら重心移動の確認 ・相手のバランスの崩し方 ・手、脇の位置	・見本を見てポイントを確認する 全体で強い姿勢の練習を行う ・強い姿勢からすり足(3歩)の練習を行う ・男女に分かれ強い姿勢からすり足5歩を3回練習する ・見本を見てポイントを確認する 強い姿勢からの押し練習を行う ・ペアで3回練習を行う ・見本を見てポイントを確認する ペアで重心、バランス、受け身の確認をしながら練習を行う ・ペアで3回ずつ練習を行う ・見本を見てポイントを確認する ＜約束＞ ・相手の手首をもつ ・体重を利用しない ・足は平行の位置 ・ペアで2回対戦を行う ・他のクラス2人と対戦を行う ・各クラスの体育係が勝ち数を集計し発表する ・見本を見てポイントを確認する ＜約束＞ ・手を胸の前にセットし、蹲踞の体勢で跳ねながら行う ・相手をつかんだりしない ・ペアで2回対戦を行う ・他のクラス2人と対戦を行う	・生徒の習得状況を把握し実践できるように支援する ・巡視しポイントを伝える ・ポイントをつかんでいるか確認しながら支援する ・ポイントと約束の徹底を目指し支援する ・引き合い相撲で、相撲の基礎を身につけながら楽しめるよう支援する ・びよんびよん相撲でバランスや相手の動きを見られるよう支援する
まとめ 5分	◇相撲の特性の確認 ◇本時のまとめ ・授業内容のまとめ ・個人カードの確認 ・次時の学習の確認	・6つの相撲の特性を確認する ・個人カードの書き方の確認する	・話を聞く姿勢に留意する ・本時で行われたことが相撲の特性に結びついていることを理解できるよう説明する

（資料4）生徒の記録〔抜粋〕

(/) 年 () 組 氏名 ()	
7 月 11 日	グランド名 3組 2班
4 時間目	
今日の目標・課題 押し方と姿勢	練習内容 体操：屈伸・伸脚・腰割り、首スリッパ 脚蹴。鷹沖水・四股10回・すり足10本 ぶつかりから押し相撲 押し方字びあい
自 まあまあできた△	良くてできた○
良くてできた○	すごく良くてできた◎
・ウォーミングアップ・基礎練習を積極的に行えましたか。	○
・規則や礼儀を守り、意欲的に授業に参加できましたか。	○
・協力して練習をしたり、試合をすることができましたか。	○
・安全に注意して授業が行えましたか。	○
・授業の準備、片づけがしっかりとできましたか。	○
・目標を達成することができましたか。	○
今日できたこと	
今日できなかったこと	
押し方と姿勢はまあまあ良かった。でも、腕の間に時間があった。	
仲間の動きを見て感じたこと もって頭を相手の胸のあたりにつけて 押し、お尻をすくれば良かった。	

(2) 年 () 組 氏名 ()	
7 月 8 日	グランド名
3 時間目	
今日の目標・課題 鷹沖水をしっかりと覚え、 強い姿勢と判定を意識しながら行う	練習内容 体操：屈伸・伸脚・腰割り、首スリッパ 脚蹴。鷹沖水・四股10回・すり足10本 グループごと課題発見、押し相撲試合
自 まあまあできた△	良くてできた○
良くてできた○	すごく良くてできた◎
・ウォーミングアップ・基礎練習を積極的に行えましたか。	◎
・規則や礼儀を守り、意欲的に授業に参加できましたか。	◎
・協力して練習をしたり、試合をすることができましたか。	◎
・安全に注意して授業が行えましたか。	◎
・授業の準備、片づけがしっかりとできましたか。	◎
・目標を達成することができましたか。	◎
今日できたこと	
今日できなかったこと	
押し相撲でお尻をすくるときに ふんばって、相手をお尻をすく お尻をすくるときに、相手をお尻をすく お尻をすくるときに、相手をお尻をすく	
仲間の動きを見て感じたこと お尻をすくるときに、相手をお尻をすく お尻をすくるときに、相手をお尻をすく	

(/) 年 () 組 氏名 ()	
7 月 14 日	グランド名 3組 2班
5 時間目	
今日の目標・課題 どの練習でもまじわる、 立ちあいと姿勢に注意して行う	練習内容 体操：屈伸・伸脚・腰割り、首スリッパ 脚蹴。鷹沖水・四股10回・すり足10本 仕切りからぶつかり、押しの練習
自 まあまあできた△	良くてできた○
良くてできた○	すごく良くてできた◎
・ウォーミングアップ・基礎練習を積極的に行えましたか。	◎
・規則や礼儀を守り、意欲的に授業に参加できましたか。	◎
・協力して練習をしたり、試合をすることができましたか。	◎
・安全に注意して授業が行えましたか。	◎
・授業の準備、片づけがしっかりとできましたか。	◎
・目標を達成することができましたか。	◎
今日できたこと	
今日できなかったこと	
目標・課題をやること ちゃんと立ちあいの時に かかっていたか、かかっていたか	
仲間の動きを見て感じたこと 土俵さわり、ふんばりがあまいと思ったので、 大会では正しいまわりの時には意識して行いたい	

(3) 年 () 組 氏名 ()	
7 月 9 日	グランド名
4 時間目	
今日の目標・課題 お尻をすくるときに、相手をお尻をすく お尻をすくるときに、相手をお尻をすく	練習内容 体操：屈伸・伸脚・腰割り、首スリッパ 脚蹴。鷹沖水・四股10回・すり足10本 ぶつかりから押し相撲 押し方字びあい
自 まあまあできた△	良くてできた○
良くてできた○	すごく良くてできた◎
・ウォーミングアップ・基礎練習を積極的に行えましたか。	◎
・規則や礼儀を守り、意欲的に授業に参加できましたか。	◎
・協力して練習をしたり、試合をすることができましたか。	◎
・安全に注意して授業が行えましたか。	◎
・授業の準備、片づけがしっかりとできましたか。	◎
・目標を達成することができましたか。	◎
今日できたこと	
今日できなかったこと	
お尻をすくるときに、相手をお尻をすく お尻をすくるときに、相手をお尻をすく	
仲間の動きを見て感じたこと お尻をすくるときに、相手をお尻をすく お尻をすくるときに、相手をお尻をすく	

○種目
男女別個人戦（団体戦に出場しない生徒）及び男女混合団体戦（男子4名・女子3名、先鋒を男子とし、以降女子、男子の順で大将まで揃える。各クラス2チーム）とする。

○大会運営
各クラスから選出された4名（計36名）の実行委員によって行う。実行委員長は3年生より1名、副実行委員長は3年男子1名、3年女子1名。学年代表として男女問わず、1名選出する。

○仕事の内容
▽大会関連資料等の作成
・要項
・プログラム
・団体戦オーダー用紙
・団体戦トーナメント表
・個人戦トーナメント表
・開閉会式次第
・当日審判（個人戦）
・土俵責任者割り振り
▽その他当日までの仕事
・土俵の管理（1・2年生



全校相撲大会の様子

全員（毎昼休み）
▽前日・当日の仕事
・開閉会式運営
・土俵作り
・備品関係準備
○会場
本校より300メートルほど離れたところに、村民グラウンドと併設の国体記念土俵がある。個人予選をグラウンドの特設土俵で、決勝を国体記念土俵で行う。団体はトーナメント戦で、一回戦から国体記念土俵で行う。

4
部活動としての「相撲」

これまで、本校の体育における相撲について紹介させていた。専門家でない体育の先生方の相撲を尊重する態度や研究心、生徒と共に考え、長年かけて築き上げてきた歴史に頭が下がる思いである。また、本校の体育授業としての相撲は、発展的な授業としての校内相撲大会にとどまらず、部活動においても良い影響を及ぼしている。本校の相撲部は春から夏にかけて、季節部として活動しており、誰もが入部できる。現在部員は20名弱であるが、道場ではなく学校の部活動として、この部員の多さは全国的にも珍しいのではなからうか。体育の授業で関心を持った生徒がさらに、競技スポーツとしての相撲に取り組んでいる。成果としては、県大会6連覇を達成し、昨年度の関東

5
必修化に向けて

今回の武道必修化において、

安全性や施設、道具のこと、また、指導の時間数や生徒たちの親しみやすさを考えれば、相撲が導入しやすい運動種目であることは間違いない。大きな壁となるのは、指導者のメンタル的な部分であると思う。

方々に広めるために、違った角度から相撲を見直してみてもうだろうか。また、初めて指導を行う先生方にとっては、工夫できる余地がたくさんある。自分が専門でないということに引け目を感じることなく、生徒の前に立つてほしい。

や興味だけではなく、相撲の特質なども伝えなければならぬので、専門的な知識や、授業を実施するための指導書を望むことも当然である。しかし、今回の武道必修化は、体育の先生方はもちろん、競技スポーツとして相撲を指導されてきた方々にとっても、新たな相撲を発見するチャンスである。部活動などで当たり前に行ってきた練習や、常識だと決めていたものを、授業にそのまま取り入れるのではなく、初めて行う生徒や指導者の目線に立って、指導内容を見直す良い機会と考えたい。

相撲を専門に行っている先生方は、相撲道の精神や競技としての楽しさを、一人でも多くの

大会においては準優勝することができた。

部活動で相撲を行うとき、腰割やすり足、四股と言った相撲の基礎を習得するだけでも時間がかかる。しかし、本校では授業の際に基礎の部分を行っている。部活動ではその分、技術的なことに時間がかけられる。また、資料4の「生徒の記録」からもみてとれるように、体育の授業で、生徒同士が話し合ったり、考えたりすることに慣れているため、部員は自ら工夫して練習に励んでいる。

体育の授業、全校相撲大会、部活動と、本校ではその時々で相撲に対する捉え方や目標は違うが、相撲を軸に一環をなした活動が行われている。

現に私も、レスリングを主としていて先生や柔道を専門に行っている先生が行う相撲の指導に、目から鱗が落ちたという経験が少なくない。例えば、レスリングの「かいなの返し方」や「相手の下に入る方法」、柔道の「投げ技」「体捌き」など、相撲の常識にとらわれなければ、見えてくるものは多くある。相撲の経験者でなければ指導できないということはないのである。私も高校時代、国体で全国制覇をしたが、恩師は空手道の専門家であった。これから授業で相撲の導入を考えている先生方には、生徒と共に作り上げるという意識で取り組まれることを切に希望している。